

第 34 回全国フォークリフト運転競技大会開催

【一般の部】**優勝** 塩澤 純選手(愛知県支部) **準優勝** 青木隆一選手(神奈川県支部)
【女性の部】**優勝** 池田由香選手(京都府支部) **準優勝** 奥山佳奈選手(滋賀県支部)



全国フォークリフト運転競技大会

第 34 回全国フォークリフト運転競技大会

陸上貨物運送事業労働災害防止協会は、9月29日(日)、埼玉県トラック総合教育センター(埼玉県深谷市)にて第34回全国フォークリフト運転競技大会を開催しました。今大会より、過去の全国大会にて第3位～第5位の方も出場可能とし、各都道府県支部での地区予選から選出された一般の部61名、女性の部17名の選手が学科・点検・運転の3競技で知識と技能を競いました。また、500名近くの応援者が集まり、選手が運転競技を終えるたびに歓声が湧き上がりました。なお、地区予選参加選手は昨年度を大幅に上回る614名(男性587名、女性27名)でした。

この大会は、フォークリフトの運転競技を通して、遵法精神と安全意識の高揚、運転の知識と技能の向上を図り、職場における安全作業の確立と労働災害の防止を目的として厚生労働省の後援、公益社団法人全日本トラック協会及び一般社団法人日本産業車両協会の協賛、また、コマツカスタマーサポート株式会社、住友ナコフォークリフト販売株式会社、トヨタL&F埼玉株式会社、三菱ロジスネクスト株式会社からのご協力をいただき開催されました。

開会式

午前9時からの開会式では、浜島和利大会実行委員長(陸運労災防止協会専務理事)から開会の挨拶があり(写真1)、次いで、開催地支部の鳥居伸雄埼玉県支部長から、選手激励の挨拶がありました(写真2)。



写真1 浜島大会実行委員長 写真2 鳥居支部長

続いて、昨年の優勝者が所属していた福島県支部選出の菊地隆男選手が全選手を代表して、声高らかに選手宣誓を行いました(写真3)。

学科競技

オリエンテーションが行われた後、競技が開始され、選手は、大会当日の抽選



写真3 選手宣誓

で決まったゼッケン番号を胸に着けて、最初の学科競技に取り組みました（写真4）。内容は法令、フォークリフトの荷役に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識等安全の基礎として必要な知識に関する問題です。



写真4 学科競技

点検競技

続いて、点検競技です（写真5）。フォークリフトの作業開始前点検は、労働安全衛生規則により義務付けられています。作業開始前にフォークリフトの点検を適切に行い、不具合箇所を見つけるという設定です。制限時間内での確かな点検が行われました。



写真5 点検競技

運転競技

最後は、運転競技です（写真6）。2.5t ディーゼル・トルコン車を使い、決められたコースを走行し、所定の荷の積み卸し等を限ら

れた時間の中で行います。競技中、選手がリフトの高さを操作しているときの眼の力強さに圧倒され、競技への集中力の高さを感じました。



写真6 運転競技

表彰式

競技は最高気温が30度近くまで上がる天候の中で行われました。

全選手が競技を終え、午後4時半から表彰式が行われました。表彰式の会場となった多目的ホールには、選手の所属する事業場等から応援にかけつけた方々が入りきれないほど集まり、ホールの外まで熱気が溢れていました。

当協会渡邊健二会長からの「選手の皆様には本大会を通じて得られた経験を職場の同僚、後輩の方々に広く伝えていただき、職場における労働災害の防止になお一層のご尽力をいただきたい。陸運業における労働災害は、ここ数年増加傾向にあり、特に荷役関連災害がその多くを占めている状況にあります。その中でも、フォークリフトに起因する災害は、荷役5大災害の一つとして、その安全作業に向けた取組が求められていることから、フォークリフト作業の安全対策に一層努めてまいります。」旨の挨拶（写真7）に続き、ご来賓の厚生労働省労働基準局村山誠安

全衛生部長（写真8）、全日本トラック協会会長（代読：入谷誠全日本トラック協会役員待遇審議役）（写真9）、日本産業車両協会会長（代読：高瀬健一郎専務理事）（写真10）のご祝辞をいただきました。



写真7 渡邊会長 写真8 村山安全衛生部長



写真9 入谷役員待遇審議役 写真10 高瀬専務理事

その後、当協会黒谷一郎技術管理部長から、各競技についての講評（次々ページに掲載）と入賞者の発表が行われました。入賞者のお名前を読み上げる度、応援の方々から歓声が上がリ、大きな拍手が沸き起こりました。

続く表彰にて、陸上貨物運送事業労働災害防止協会会長賞が入賞された選手に授与されました。また一般の部及び女性の部の優勝者へ前回の大会から設けられた会長杯並びに厚生労働大臣賞が授与され、今回の大会は午後5時半に閉会となりました。



入賞選手の皆さん

前列左から、中所主任中央産業安全専門官、横尾事務局長、村山安全衛生部長、塩澤純選手、池田由香選手、渡邊会長、浜島大会実行委員長、鳥居埼玉県支部長、唄埼玉労働局労働基準部長、後列左から、佐藤盛選手、南雲一充選手、圓城規之選手、志水勝選手、青木隆一選手、奥山佳奈選手、菊地直子選手、宮島恵選手、福島京美選手、永戸初美選手（入賞者一覧は次ページに掲載）

第34回全国フォークリフト運転競技大会 一般の部 入賞者及び結果 (敬称略)

順位	氏名	支部名	総合得点	学科	点検	運転	配点	最高得点	平均点
優勝 (厚生労働大臣賞)	塩澤 純	愛知県	976	276	100	600	学科 300	288(2名)	253.1
準優勝	青木 隆一	神奈川県	961	276	100	585	点検 100	100(13名)	90.1
第3位	志水 勝	愛知県	958	288	100	570	運転 600	600(3名)	549.4
第4位	圓城 規之	滋賀県	957	282	90	585	総合得点 1,000	976	892.6
第5位	南雲 一充	栃木県	957	282	95	580	()内は最高得点者数		
健闘賞	佐藤 盛	岩手県							

(注)実施要綱に基づき、総合得点が同点の場合は運転競技得点の上位の選手が上位者となります。

第34回全国フォークリフト運転競技大会 女性の部 入賞者及び結果 (敬称略)

順位	氏名	支部名	総合得点	学科	点検	運転	配点	最高得点	平均点
優勝 (厚生労働大臣賞)	池田 由香	京都府	935	270	95	570	学科 300	276(1名)	241.4
準優勝	奥山 佳奈	滋賀県	925	270	95	560	点検 100	100(1名)	88.8
第3位	菊地 直子	東京都	923	258	95	570	運転 600	585(1名)	510.0
第4位	宮島 恵	茨城県	919	264	95	560	総合得点 1,000	935	840.2
第5位	福島 京美	群馬県	916	246	95	575	()内は最高得点者数		
健闘賞	永戸 初美	三重県							

第34回全国フォークリフト運転競技大会出場選手の皆さん (敬称略)

一般の部 (61名)

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
北海道	中村 潤也	群馬県	中島 将大	山梨県	澤邊 潤	大阪府	天野 考丞	佐賀県	吉原 和希
青森県	小田倉賢太郎		木暮 栄		高野 昭仁	奈良県	前坂雄一郎		船岡 秀伸
岩手県	熊谷 崇浩	埼玉県	佐野 正太	長野県	北島 和輝	和歌山県	田中 大輔	熊本県	川原 刀麻
	佐藤 盛		今藤 貴志		片岡 秀之	鳥取県	角 拓也		石井 剛
宮城県	庄司 誠幸	千葉県	下村 和弥	岐阜県	神谷 昌希	岡山県	三上 崇	大分県	中澤 雄介
秋田県	野村 明正	東京都	小西 和孝	静岡県	疋田 和也		遠藤 雄仁		大塚 翔太
山形県	兵藤 圭佑	神奈川県	青木 隆一		渡邊真一郎	山口県	吉村 圭太	宮崎県	厨子 正基
福島県	菊地 隆男		藤田 充廣	愛知県	塩澤 純	徳島県	奥村 渉	鹿児島県	米森 康之
	門馬 秀一	新潟県	中林 宏佳		志水 勝	香川県	渡辺 賢大	沖縄県	中村 大地
茨城県	林 祐汰		川崎 博史	三重県	岩田 拓也	愛媛県	越智 隼人		
	柴田 一樹	富山県	中瀬 涼太		井後 政勝	高知県	角先 大和		
栃木県	南雲 一充	石川県	今村 英二	滋賀県	圓城 規之	福岡県	森山 洋平		
	新里 竜矢	福井県	大村 喜男	京都府	鎌田 直樹		下條 裕也		

女性の部 (17名)

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
宮城県	星 留理子	埼玉県	志村美佐子	富山県	畑野 香織	三重県	永戸 初美	熊本県	上川 真世
茨城県	宮島 恵	千葉県	礪本友紀子	福井県	長谷川亜希	奈良県	奥山 佳奈	鹿児島県	緑 美幸
	樋口 美桜	東京都	菊地 直子	静岡県	川畑 恵梨	京都府	池田 由香	沖縄県	比嘉真由美
群馬県	福島 京美	神奈川県	野島 美沙						



第34回全国フォークリフト運転競技大会 講評

技術管理部長 黒谷一郎

2年ぶりの埼玉県トラック総合教育センターでの開催となりました「第34回全国フォークリフト運転競技大会」は、今年度より、支部からの出場者推薦対象枠の拡大及び昨年度から常設とした「女性の部」の参加者の増加等から、昨年度の64名から、「一般の部」61名「女性の部」17名、合計78名と出場選手が大幅に増加しました。また、500名近い、関係者及び応援の方にご来場いただきました。

数日前には雨天の心配もあった天候は、予想以上の晴天に恵まれた大会となりました。

選手の皆様は多くの観客の盛大な応援を受け、緊張の中での競技で、日ごろの実力を発揮できた方、また残念ながら十分に実力を発揮できなかった方、それぞれだったと思いますが、競技に臨む選手の真剣な眼差し、関係者の方々のサポートに心より敬意を表する次第です。

全国大会に参加した経験が必ず今後の各職場での安全で迅速なフォークリフト荷役作業に生かしていただけるものと信じています。

成績概要

「一般の部」優勝者の総合得点は、976点(満点1,000点)でした。5位までの得点差は19点でした。

「女性の部」優勝者の総合得点は、935点で、5位までの得点差は、19点でした。

各競技別の詳細は、以下のとおりです。

「一般の部」

◎学科競技：最高点288点(2名)

平均点253.1点

◎点検競技：満点(100点)13名

平均点90.1点

◎運転競技：満点(600点)3名

平均点551.2点

「女性の部」

◎学科競技：最高点276点

平均点241.4点

◎点検競技：満点100点(1名)

平均点88.8点

◎運転競技：最高得点585点

平均点510点

今大会は、学科試験で満点がなく、やや難しかったのかもしれませんが。

点検、運転の各競技で一般、女性両部門とも平均点が昨年度を上回りました。

昨年度に目に付いた、形式的な「指差確認」については、適切に改善されていました。

運転技能の向上と安全意識の高揚を目的とする本大会が、選手の奮闘と関係者の熱意で無事終了し、その役割を果たすことができたことに感謝を申し上げ、講評とします。

なお、今年度の大会開催が最後となりました、埼玉県トラック総合教育センターの関係者の皆さんに心よりお礼を申し上げます。



写真 運転競技場（埼玉県トラック総合教育センター研修棟から撮影）

みんなで勝ち取った優勝

第34回大会 一般の部 優勝 塩澤 純選手

優勝おめでとうございます。ご感想をお聞かせください。

昨年の全国大会で5位でしたので今年は優勝しか狙っていませんでした。それでも入賞者発表で5位から4位と順に発表されて自分の名前が呼ばれないのは不安になりましたが、最後に自分の名前が呼ばれたとき、凄くうれしかったです。自分は県大会（愛知県大会）に7回出場し3回目の全国大会出場で、やっと優勝することができました。指導員、職場のみんなの思いを背負って臨みました。みんなで勝ち取った優勝です。

大会への出場のきっかけは、入社2年目ぐらいに社内の大会で優勝した際に県大会について教えてもらったことです。

どのように全国大会に臨まれましたか？

今大会から過去の全国大会の3位～5位でも出場可能になったので、リベンジするという一心で必死に猛勉強して県大会に臨みました。仕事の待機時間や休憩時間にテキストを読み、自宅では小さい子供がいるのですが妻が勉強する時間を作ってくれました。

全国大会への出場が決まってからも勉強に終わりはないので続けていくしかないと思い、勉強しました。全国大会の2週間前からは会社が定期便の業務を降ろしてくれまして、その期間は私と指導員の方々と3競技の練習を社内で行いました。運転コースは構内を空けてもらい2週間設置しました。

全国大会前日は、3回目の出場からか、緊張もせず眠ることができました。

各競技で手応えはありましたか？

学科競技は、後半の問題が難しく時間がかかったので見直しができませんでした。学科競技終了後に満点ではないことが分かり、優勝

するためには点検と運転では点を落とせないと思いました。

点検競技は、得意なのですが、いざ臨むと不具合箇所が少ないので不安になりましたが、終了後に指導員から大丈夫と言われ安心しました。

運転競技は、前回大会が580点で

したので、今大会では満点を取ることを一番の課題にして臨みました。手応えはありました。**優勝することができた秘訣を教えてください。**

誰よりも優勝したい気持ちが強かったと思います。毎日練習や勉強が続けられたのはこの気持ちがあったからです。

現在の職務内容をお聞かせください。

トラックの運転手です。フォークリフトは毎日4時間ほど運転します。大会に出場してからは一層事故を起さないように運転しています。

最後に一言お聞かせください。

数年前のわが社では、全国大会に出場することが凄いことでした。それから経験と知識を何人もが受け継いで全国大会優勝に至りました。私一人ではなく、関わってきたみんなで勝ち取った優勝です。これからは先輩同様、私も後輩たちへ安全作業の指導と大会で優勝できるように指導したいです。



優勝された塩澤選手



楽しむこと、信じること

第34回大会 女性の部 優勝 池田由香選手

優勝おめでとうございます。ご感想をお聞かせください。

入賞者発表では、まさか自分の名前が優勝で呼ばれるとは思わず、来年の大会に出場する覚悟をしていたので、呼ばれてから反応が遅れてしまいました。

自分が優勝できたこともうれしいのですが、何より支えてくれたみんなと優勝を分かち合えたことがうれしいです。

大会出場のきっかけをお聞かせください

「昨年から全国大会に女性の部が常設されたことから、会社として女性を出場させたい」とのことでカウンターバランスにも乗っていた私が推薦されました。今回が初参加です。

どのように大会に臨まれましたか？

練習は、会社や職場の仲間が全面協力してくれました。運転競技の練習では自分ができていないことを的確に指摘してくれたので、運転技術が日々向上していくのが実感できました。大変でしたけどフォークリフトが好きなので楽しかったです。

滋賀県・京都府合同大会には漠然と自信があったので、参加するのが楽しみでした。各競技で自分のベストを出せたので今まで積み重ねてきたことを集大成することができました。

全国大会に出場が決まってからはテキストを常に持ち歩いて、いつでも読めるようにしていました。全国大会出場経験者が作った難度の高いオリジナル学科問題を何問も解きました。フォークリフトにも毎日触れて運転や点検の練習をしました。

全国大会前日は運転競技の各項目を細かいところまでクリアできないと通用しないと考えすぎて不安でした。そんな時、指導員が「今まで十分に取り組んできたんだから楽

しめ！」と言ってくれたので、普段どおりに臨むことができました。

各競技で手応えはありましたか？

学科競技と点検競技は、一つ一つを丁寧に取り組んで、終わった後は気にしないようにしました。

運転競技の最後の最後にミスをしたので優勝はないと思っていました。

優勝することができた秘訣を教えてください。

各競技を担当してくれた優秀な指導員のみなさんとたくさんの仲間のおかげです。その協力と応援に応えられるかがプレッシャーになって潰されそうになった時期もありましたけど、これまで会社が全国大会に何人も出場させてきた蓄積を信じることで結果を出すことができました。

現在の職務内容をお聞かせください。

4年前に資格を取得し、毎日フォークリフトの運転業務に従事しています。安全に運転することを前提に、シンプルで無駄のない運転を心掛けています

最後に一言お聞かせください。

自分はこの大会に出場して知識も運転技術もレベルアップしました。そしてこれからは育てる立場になりたいという将来のビジョンも持つようになりました。たくさんの方にこの大会に参加してもらいたいです。



優勝された池田選手





第 34 回全国フォークリフト運転競技大会 写真